



Quarterly Report

四半期レポート

あおぞら・日本株式アラインメント・ファンド＜愛称：まくあき＞

追加型投信／国内／株式



四半期の振り返りレポート（2026年4月～6月）

平素より「あおぞら・日本株式アラインメント・ファンド 愛称：まくあき」（以下、「本ファンド」といいます。）をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。本資料では、本ファンドの2026年4月～6月（以下、「当四半期」といいます。）における運用状況を振り返ります。



ファンドの詳細は
[あおぞら投信Webサイト](#)
よりご覧いただけます。

設定来の基準価額の推移（日次）



参考指標：税引後配当込みTOPIX ※税引後配当込みTOPIXの指数値及び税引後配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社の知的財産です。※上記の基準価額の推移は、設定日2024年11月15日を10,000円として計算しています。※基準価額の推移は、本ファンドの信託報酬控除後の価額です。※参考指標は、本ファンドの基準価額算出時に使用する組入れファンドの対象日に合わせて前営業日の数値で指数化しています。

運用実績（2026年6月30日現在）

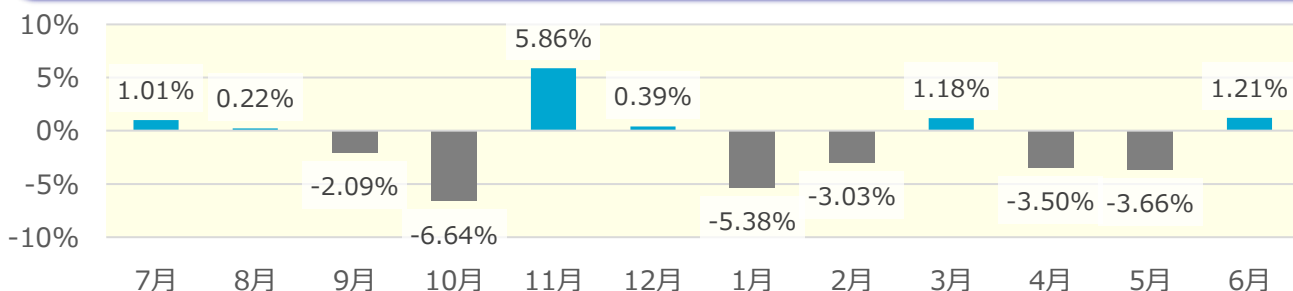
基準価額	13,769円
純資産総額	216.77億円

期間騰落率（年率換算前）

期間	本ファンド	参考指標
当四半期	5.6%	12.6%
1年	21.7%	42.9%
設定来	37.7%	52.2%

設定日：2024年11月15日
※本ファンドの期間騰落率は、信託報酬控除後のものです。なお、換金時の費用、税金等を考慮しておりません。※本ファンドの期間騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。また、実際の投資家利回りは異なります。※参考指標の期間騰落率は、本ファンドの基準価額算出時に使用する組入れファンドの対象期間に合わせて月末前営業日を基に計算しています。

オービスSICAVジャパン・エクイティ・ファンド（組入れファンド）のベンチマークに対する超過収益率



※2025年7月～2026年6月、月次推移 ※組入れファンドのベンチマーク：税引後配当込みTOPIX

※上記の数値は、本ファンドの基準価額算出時に使用する組入れファンドの対象日に合わせて前営業日の数値を基に計算しています。

上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
※後掲の「本資料のご利用にあたっての留意事項等」をご覧ください。

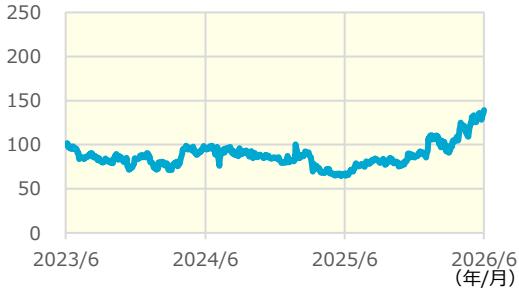
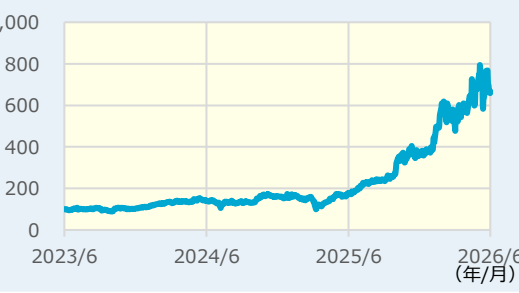


あおぞら投信

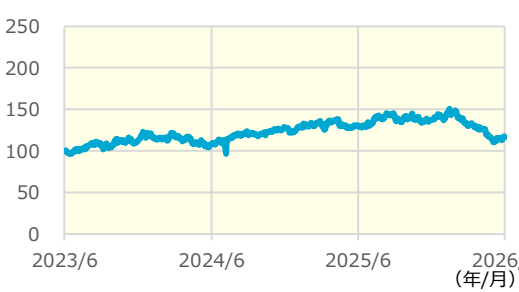
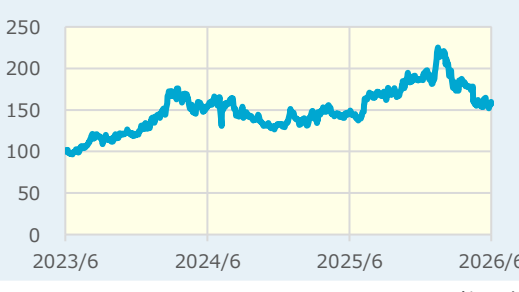
当四半期におけるパフォーマンス寄与度 上位銘柄／下位銘柄

コメント：オービス・インベストメンツ株式会社（以下、「オービス社」といいます。）の情報に基づきあおぞら投信が作成。
株価推移：Bloombergのデータを基にあおぞら投信が作成。2023年6月末を100として指数化。

パフォーマンス寄与度 上位銘柄の例

銘柄	コメント	株価推移（2023年6月末～2026年6月末、日次）
ミズミグループ 本社	好調な四半期決算が続いていることを受け、市場の評価が引き続き高まりました。また同社は、累進配当の導入および300億円の自社株買いを発表しました。データセンター、アグリテック、およびヒューマノイドをはじめとする成長産業へ注力していく方針を経営陣は引き続き発信しており、市場の期待が高まったと考えています。基準日時点において、同社は上位保有銘柄となっています。	
住友電気工業	AI（人工知能）関連テーマに対する投資家の期待の高まりが引き続き追い風となりました。また、AIデータセンター関連部品事業の力強い成長を反映し、好調な四半期決算および前向きな中期経営計画が発表されました。基準日時点において、同社は上位保有銘柄となっています。	

パフォーマンス寄与度 下位銘柄の例

銘柄	コメント	株価推移（2023年6月末～2026年6月末、日次）
大和ハウス工業	建設コストの増加に加え、世界経済の減速や金利上昇による住宅需要および不動産価値への影響が懸念され、株価の重しとなりました。さらに、発表された四半期決算が市場予想を下回ったほか、経営陣は中東情勢の悪化により1,000億円の影響が生じるとの見通しを示しました。基準日時点において、同社は上位保有銘柄となっています。	
三井不動産	5月に発表された四半期決算において、来期の通期業績予想における利益および一株当たり配当が保守的なものであったことに加え、発表された自社株買いが比較的小規模であったことを受け、株価は下落しました。特に、賃料上昇による追い風を踏まえ、業績予想は市場に失望感を与える内容でした。基準日時点において、同社は上位保有銘柄となっています。	

上記は例示を目的とするものであり、本ファンドへの組入や保有の継続を示唆あるいは保証するものではありません。また、当該個別銘柄等の購入、売却等いかなる投資推奨を目的とするものではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
※後掲の「本資料のご利用にあたっての留意事項等」をご覧ください。

オービスSICAVジャパン・エクイティ・ファンド（組入れファンド）運用チームのコメント（1/3）

出所：オービス・インベストメンツ株式会社（以下、「オービス社」といいます。）の情報に基づきあおぞら投信が作成。
・本資料はオービス社及び同社が所属するオービス・グループ、またオービス・グループが運用するオービス・ファンドに関する情報提供を目的とする資料です。
・本資料中に記載した個別の金融商品の推奨や勧誘を意図するものではありません。
・文中で「弊社」はオービス・グループを、「当戦略」はオービスSICAVジャパン・エクイティ・ファンド（投資対象ファンド）を指します。

日本の輸出主導・製造業中心の経済を象徴する**トヨタ自動車**は、20年以上にわたり、日本企業の時価総額首位の座を維持してきました。しかし、6月初旬にその座を**ソフトバンクグループ**に明け渡しました。孫正義氏率いる巨大テクノロジー企業であるソフトバンクグループは、2000年のITバブルのピーク以来、再び時価総額首位となりました。AIを巡る投資家の期待が一段と高まるなか、英国の半導体設計会社Armホールディングスや、ChatGPTの開発元であるOpenAIへの巨額投資が市場から評価され、ソフトバンクグループの株価は過去最高値を更新しました。企業価値が1兆ドル超と見込まれているOpenAIが新規株式公開（IPO）の申請書の提出を発表した6月初旬の時点で、ソフトバンクグループの株価は2025年初めから既に3倍超に上昇していました。

しかし、その地位は長くは続きませんでした。その後わずか数週間のうちに、2017年に東芝からスピンオフしたメモリー半導体メーカーの**キオクシアホールディングス**が、ソフトバンクグループとトヨタ自動車を抜いて、時価総額首位に躍り出ました。驚くべきことに、キオクシアホールディングスが上場したのは2024年12月のことであり、当時そのIPOは投資家の注目をほとんど集めませんでした。さらに驚くべきは、当初は投資家の関心の低さが懸念され、上場自体が延期されていたという点です。

厳しい船出であったものの、その後のキオクシアホールディングスの躍進は目を見張るものでした。同社のメモリー半導体に対する爆発的な需要を背景に、利益は急拡大し、株価も急騰しました。直近18ヶ月間で、同社の株価は実に50倍超の上昇を記録しました。

AIの恩恵を直接受ける企業だけでなく、AIのサプライチェーンに関わるほぼあらゆる企業で株価が大きく上昇しています。シリコン、セラミックス、ガラスクロスなどの素材を手掛ける専門メーカーも、AI向けサプライチェーンで供給制約が強まるなか、需要拡大の恩恵を受けています。半導体向けシリコンウェーハを製造する**SUMCO**や、AI向け半導体基板に使用される特殊ガラスクロスを製造する**日東紡績**は、その代表例です。両社の株価は、直近18ヶ月間でいずれも3倍超に上昇しました。

さらに意外なのは、うま味調味料で知られる**味の素**や、トイレをはじめとする住宅設備メーカーの**TOTO**です。味の素は、アミノ酸技術が半導体パッケージングに応用できるとの期待から株価が急騰し、TOTOは、半導体製造工程でシリコンウェーハを保持するセラミック製静電チャックを製造していることが市場から評価されています。いずれもAI関連企業というイメージはありませんが、市場はAIサプライチェーンとの繋がりがあるというだけで、こうした企業を次々と高く評価しています。

その結果、市場では極めて限られた銘柄に資金が集中しながらも、力強い上昇相場となりました。年初来で、TOPIX500構成銘柄のうち、TOPIX500指数を上回った銘柄はわずか3分の1に過ぎません。それにもかかわらず、TOPIX500指数は年初来で、過去数十年でも有数の好調な推移を見せています。

上記各銘柄および指数の直近18ヶ月間騰落率（2024年12月末～2026年6月末）

トヨタ自動車	ソフトバンクグループ	キオクシアホールディングス	SUMCO	日東紡績	味の素	TOTO	TOPIX 500
△13.4%	+159.7%	+5,368.3%	+240.6%	+236.1%	+82.1%	+126.3%	+43.4%

出所：Bloombergのデータを基にあおぞら投信が作成。 (次ページへ続く)

上記は例示を目的とするものであり、本ファンドへの組入や保有の継続を示唆あるいは保証するものではありません。また、当該個別銘柄等の購入、売却等いかなる投資推奨を目的とするものではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
※後掲の「本資料のご利用にあたっての留意事項等」をご覧ください。

オービスSICAVジャパン・エクイティ・ファンド（組入れファンド）運用チームのコメント（2/3）

出所：オービス社の情報に基づきあおぞら投信が作成。

一方、当戦略はAI関連銘柄へのエクスポージャーを抑えているため、こうした株価上昇の恩恵を十分に享受することはできませんでした。年初来で指数を上回った保有銘柄は約25%にとどまりました。AI関連銘柄へのエクスポージャーが低かったことは厳しい結果につながりましたが、通常の市場環境であれば、市場を上回る成果を上げる道筋は一つではありません。今年、市場は何よりもAI関連へのエクスポージャーを評価しています。それを象徴するように、当戦略で最も好調だった5銘柄のうち4銘柄は、AIサプライチェーン関連銘柄でした。

今年、当戦略で最も好調な銘柄は、過去のコメンタリーでも取り上げてきた**住友電気工業**です。当戦略では同社株を7年以上にわたり継続して保有しています。その大半の期間、同社は自動車向けワイヤーハーネスのサプライヤーとして認識され、市場から十分な評価を受けず、株価もほぼ横ばいで推移していました。しかし、その後同社は大きな転換を遂げ、昨年初め以降、株価は約4倍に上昇しました。データセンターのキャパシティ増強が急速に進むなか、省エネルギー性能に優れた光デバイスや光コネクタへの需要が急拡大したことで、利益成長の見通しだけでなく、市場の同社に対する見方も大きく変わりました。

当戦略のその他の勝ち銘柄としては、**リガク・ホールディングス**が挙げられます。同社はX線を中核とした分析・計測機器を製造しており、従来は主に研究機関向けに使用されていましたが、近年ではその技術が半導体製造工程にも活用されています。市場が同社の価値を認識するようになり、投資開始からわずか7カ月で株価が3倍超に上昇したことを受け、5月に全売却しました。

ミスミグループ本社も、AI関連インフラ投資の拡大による恩恵を受けた銘柄です。同社はファクトリーオートメーションやデータセンター向けのオーダーメイド部品を供給しており、いずれの分野もAI投資の加速を背景に需要が拡大しています。同社の株価は過去1年間で約2倍に上昇しました。

AI関連銘柄が目覚ましい株価上昇を見せる一方で、AIと直接関係のない企業に対する市場の無関心もまた際立っています。このように資金が一つのテーマへと集中する市場環境下では、コントラリアンな投資家が短期的に市場に追従することは容易ではありません。しかし、こうした局面こそ、市場の関心が集まっていない領域に目を向ける勇気と忍耐を持つ投資家にとって、最も魅力的な投資機会が生まれると考えています。

上記3銘柄の直近18ヶ月間騰落率（2024年12月末～2026年6月末）

住友 電気工業	リガク・ ホールディングス	ミスミ グループ本社
+310.3%	+171.7%	+62.7%

出所：Bloombergのデータを基にあおぞら投信が作成。

弊社のコントラリアンな運用哲学では、適正な価格で投資できるのであれば、市場に先んじて投資することを厭いません。一方で、割高な価格で投資したり、単に市場に追従したりすることは、弊社の運用アプローチとは相容れません。市場の関心が別の方向に向いている今、弊社が以前から高く評価してきた企業を、ここ数年では見られなかった魅力的なバリュエーションで組み入れることが可能となっています。その結果、ポートフォリオの質を大きく高めることができたと考えています。

（次ページへ続く）

上記は例示を目的とするものであり、本ファンドへの組入や保有の継続を示唆あるいは保証するものではありません。また、当該個別銘柄等の購入、売却等いかなる投資推奨を目的とするものではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
※後掲の「本資料のご利用にあたってのご留意事項等」をご覧ください。

オービスSICAVジャパン・エクイティ・ファンド（組入れファンド）運用チームのコメント（3/3）

出所：オービス社の情報に基づきあおぞら投信が作成。

その好例が**GMOペイメントゲートウェイ**です。決済業界は、AI時代における“敗者”となるのではないかと懸念が高まっています。その結果、同社は引き続き強い利益成長を実現しているにもかかわらず、年初来では市場を20%超下回り、バリュエーションも過去最低水準近くまで低下しています。しかし、弊社はこうした懸念をそれほど重要視していません。2026年6月末時点において、同社は当戦略における最大の組入銘柄となっています。

これまでの実績が、同社の質の高さを十分に物語っていると考えています。同社は20年以上にわたり、利益を年率約25%で成長させてきました。さらに、日本におけるEコマースの拡大やキャッシュレス決済への移行といった構造的な追い風を背景に、今後6年間に、1株当たり利益は年率約15%で成長すると弊社は予想しています。創業者である相浦一成氏は、これまで卓越した実行力を発揮してきた経営者であり、AI時代における課題を乗り越え、機会を生かしながら同社を率いていくにふさわしい人物であると確信しています。

任天堂も同様です。世界的に見ても、任天堂ほど幅広い世代から愛される製品を持つ企業は多くありません。しかし、株価は昨年8月の高値から半値近くまで下落しています。その背景には、AIを巡る二つの逆風があります。

第一に、AIインフラ構築を進める巨大クラウド企業によってメモリー供給が逼迫し、メモリー価格が大幅に上昇したことで、任天堂の製品コストを押し上げるとともに、短期的な利益率を圧迫するとの見方が強まっています。第二に、AIの進化によってゲーム開発への参入障壁が低下し、新規参入が容易になることで、任天堂がゲームコンテンツで築いてきた競争優位性が損なわれるのではないかと懸念が高まっています。

しかし、弊社は、いずれの懸念も過度なものだと考えています。任天堂のIP（知的財産）は、マリオ、ゼルダ、ポケットモンスターをはじめ、これまで幾度もの技術革新を経ても、その価値を維持してきました。AIの登場も例外ではないと考えています。9カ月前の半分の株価水準となった現在、エンターテインメント業界において最も認知度が高く、時代を超えて支持されてきたIPの一つを有する同社に、非常に魅力的なバリュエーションで投資できる機会だと考えています。現在の株価には、同社のIPが持つ利益成長余地がなお十分に織り込まれていないと考えています。

GMOペイメントゲートウェイと任天堂は、一例に過ぎません。当戦略の保有銘柄全体を通じて、同様の傾向が見られます。強固なファンダメンタルズ、確かな実績、そして明確な長期成長の可能性を備えているにもかかわらず、市場から見過ごされ、バリュエーションは極めて魅力的な水準となっています。

ソフトバンクグループやキオクシアが日本企業の時価総額ランキングの頂点に立ったことが、日本市場における恒久的な世代交代の始まりなのか、それとも変化を繰り返してきた日本市場の長い歴史における新たな一幕に過ぎないのかを判断することは容易ではありません。しかし、一つ確かなことがあります。こうした急速に成長するテクノロジー企業の陰で、質の高い企業が市場から見過ごされ、極めて割安な水準となっています。市場の関心が別の方向に向いている間に、そのような企業を見出すことこそ、弊社の運用の本質であると考えています。

寄稿： プレット・モーシャル、アレックス・ボウルズ（Orbis Portfolio Management (Europe) LLP, ロンドン）

上記は例示を目的とするものであり、本ファンドへの組入や保有の継続を示唆あるいは保証するものではありません。また、当該個別銘柄等の購入、売却等いかなる投資推奨を目的とするものではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
※後掲の「本資料のご利用にあたっての留意事項等」をご覧ください。



ファンドの特色

- 1

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

ルクセンブルク籍の外国投資信託証券(以下「投資対象ファンド」ということがあります。)に投資を行い、実質的に日本の株式等に投資をすることで信託財産の長期的な成長を目指します。
- 2

お客さまの利益の追求を目指す運用報酬体系

 - 本ファンドの実質的な信託報酬※のうち、投資対象ファンドの運用の基本報酬は徴収しません。
 - 払い戻しメカニズム(リファンダブル方式)のある成功報酬体系を適用します。

払い戻しメカニズム(リファンダブル方式)とは…

投資対象ファンドは運用パフォーマンスがベンチマークのパフォーマンスを上回らない限り、運用報酬を徴収しません。

一方、ベンチマークのパフォーマンスを下回った場合は、運用報酬をファンドに払い戻します。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の『「払い戻しメカニズム」のある成功報酬体系』をご覧ください。
- 3

わが国の株式に投資する投資対象ファンドの運用は「オービス・インベストメント・マネジメント・リミテッド」が行います。

- 創業来、本源的価値に対し、割安と考える銘柄への投資によって、お客さまに長期的な超過収益をお届けすることに専心しています。
- 英国領バミューダ(首都ハミルトン)に本社を置くオービス社は、世界各地に拠点を構えており、中でもロンドンが最大規模の拠点です。ロンドンオフィスには、投資リサーチ、ポートフォリオ・マネジメント、トレーディング、ファンド・オペレーション、法務、コンプライアンスなどの機能があり、ロンドンにおける従業員数は同社グループ全体の約40%を占めています。オービス社は、旗艦戦略であるグローバル株式戦略、日本株式戦略を含む単一国戦略、マルチアセット戦略など、多岐にわたる運用戦略を提供しています。投資対象ファンドの運用はロンドンにて行われます。

オービス社の運用手法

- 市場で過小評価されている銘柄の発掘と確信ある投資判断
- コントラリアン(他とは異なる銘柄選択＝過小評価された銘柄の発掘)なポジションの構築
- 見解が功を奏するまでに時間を有しても、確信がある限り、忍耐強く待ち続ける投資スタイル

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

投資リスク ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資を行いますので、基準価額は変動します。したがって、**投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**本ファンドの信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。

基準価額の主な変動要因については次の通りです。※変動要因は下記に限定されるものではありません。

●株価変動リスク ●流動性リスク

お申込みメモ

詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」および目論見書補完書面をご覧ください。
お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせください。

購入単位	販売会社により異なります。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して8営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	バミューダの銀行休業日かつニューヨークの銀行休業日または委託会社の定める休業日
信託期間	原則として無期限（設定日:2024年11月15日）
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年11月20日（ただし、休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回（11月20日）の決算時に原則として収益の分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合や、分配金が支払われない場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。本ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。配当控除の適用が可能です。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用			
購入時手数料		購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を 上限 として販売会社毎に定める率を乗じて得た額とします。	
信託財産留保額		なし	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
運用管理費用 (信託報酬)	項 目	ファンドの純資産総額に応じて	
		500億円以下の部分	500億円超の部分
	①本ファンドの運用管理費用 (信託報酬) ^{※1}	年率1.21%(税抜1.10%)	年率1.10%(税抜1.00%)
	②投資対象とする 投資信託証券の運用報酬	基本報酬：ありません。	
		<成功報酬 ^{※2} > 成功報酬(日次)=ベンチマークに対する超過収益×土成功報酬38% * * ±成功報酬38%とは + (プラス)成功報酬38%：ベンチマークを上回った場合、その上回った部分の38%が成功報酬となります。 - (マイナス)成功報酬38%：ベンチマークを下回った場合、その下回った部分の38%が払い戻す成功報酬となります。	
		実質的な負担 ^{※3}	
	上記①のファンドの純資産総額に 年率1.21%(税抜1.10%)以内 の率を乗じた額に上記②の 成功報酬 を加えた額となります。		
※1 本ファンドの運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。 ※2 本ファンドの成功報酬は、本ファンドが投資対象とする投資信託証券において、その運用実績が良好であった場合に発生し、良好でなかった場合は投資対象ファンドに払い戻す費用です。なお、成功報酬は、投資対象とする投資信託証券より支払われます。また、成功報酬は運用状況によって変動しますので、事前に金額を表示することはできません。 ※3 上記は目安であり、指定投資信託証券への投資比率が変動することにより、投資者が負担する実質的な運用管理費用(信託報酬)は変動します。			
その他の運用・手数料	信託事務の諸費用	監査費用、印刷費用等、信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。また、投資対象とする投資信託証券において管理報酬等が別途加算されますが、当該投資信託証券の資産規模ならびに運用状況等に応じて変動するため、受益者が実質的に負担する当該管理報酬等の率および総額は事前に表示することができません。	
	売買委託手数料等	有価証券売買時の売買委託手数料、借入金・立替金の利息、ファンドに関する租税等がファンドから支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。	

※上記手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

本資料のご利用にあたってのご留意事項等

■本資料は、あおぞら投信株式会社(以下「当社」といいます。)(が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡しいたしますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。))に投資するため、基準価額は変動します。したがって、投資元本および分配金が保証された商品ではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。■本資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。■本資料に記載された市況や見通し(図表、数値等を含みます。))は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。■投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象とはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。

■ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」および目論見書補完書面をご覧ください。

本資料で使用している指数(インデックス)の著作権などについて

税引後配当込みTOPIXの指数値及び税引後配当込みTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」といいます。)) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など税引後配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び税引後配当込みTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は税引後配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

委託会社その他関係法人の概要について

●あおぞら投信株式会社(委託会社)：信託財産の運用の指図等を行います。

●三井住友信託銀行株式会社(受託会社)：信託財産の保管管理等を行います。

【照会先】あおぞら投信株式会社

電話：050-3199-6343

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

ホームページ・アドレス：<https://www.aozora-im.co.jp/>



あおぞら投信

取扱販売会社一覧

販売会社名 登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社あおぞら銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号	○		○	
今村証券株式会社 金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号	○	○		
株式会社SBI証券 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
OKB証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第191号	○			
株式会社神奈川銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第55号	○			
京銀証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第392号	○			
株式会社京都銀行 登録金融機関 近畿財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社京都銀行 （委託金融商品取引業者：京銀証券株式会社） 登録金融機関 近畿財務局長（登金）第10号	○		○	
京都信用金庫 登録金融機関 近畿財務局長（登金）第52号	○			
株式会社三十三銀行 登録金融機関 東海財務局長（登金）第16号	○			
株式会社常陽銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第45号	○		○	
大熊本証券株式会社 金融商品取引業者 九州財務局長（金商）第1号	○			
株式会社トマト銀行 登録金融機関 中国財務局長（登金）第11号	○			
株式会社富山第一銀行 登録金融機関 北陸財務局長（登金）第7号	○			
松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
水戸証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○	○		
moomoo証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3335号	○	○		
楽天証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者：マネックス証券株式会社） 登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者：マネックス証券株式会社） 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○	

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。また、今後変更となる場合があります。

※販売会社は本ファンドの販売業務等を行います。

※投資信託説明書（交付目論見書）は、上記の販売会社で入手することができます。